

聖書箇所：ルカ16：19～31

タイトル：「セカンドチャンスはない」

テーマ：日本では丁度、お盆と呼ばれる季節です。人間誰も死んだあとはどうなるのか気にかかるところです。イエスは一人の金持ちと貧乏人ラザロの人生と死、そして、二人の死後の世界をとおして、私たちに何を語ろうとされたのでしょうか。イエスの真の意図を考えてみましょう。

## 1. 一人の金持ちと貧乏人ラザロの人生

### ①金持ち

- \*紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
- \*この金持ちが何か罪を犯したとは書かれていない。
- \*彼は、ラザロという全身おどきの貧乏人に対して、あわれみの心を示すことなく、自分の楽しみと欲のためだけに生きた。

### ②貧乏人ラザロ

- \*全身おどき
- \*貧乏人
- \*たぶん働くことができなかった（働きたくても雇ってくれる人がいない、体力的にも無理、見るからにみすぼらしく、汚いので受け入れてもらえない）。
- \*他者のあわれみにすぎるより生きる方法なし。
- \*ついに金持ちからの施しを受けることができず。

### ③同じころ、死を迎えた二人

- \*金持ち——死んで葬られた
- \*ラザロ——御使いたちによってアブラハムのふところへ連れていかれた

以上の描写により、金持ちには神に対する恐れと信仰がなく、貧乏人のラザロは神に信頼していたことがわかる。

## 2. 二人の死後の世界

### ①金持ち——ハデスで苦しみにあっている。

ラザロを見下している。（生前と同じ態度）アブラハムのふところにいるラザロを召使のように使って、水を持って来させようとしている。

### ②ラザロ——アブラハムのふところで慰めを受けている。

- \*二人の境遇は地上にいたときと、全く逆転している。

### ③金持ちの訴えとアブラハムの答え

- \*炎の中で苦しくてたまらない、ラザロに水を持って来させてほしい——金持ちは地

上で良い物を受け、ラザロは悪い物を受けた。生前の二人の信仰が死後の世界を逆転させた。その上、金持ちとラザロの間にある大きな淵を越えて行き来はできない。

\*せめて自分の5人の兄弟が、苦しみのある場所に来ることのないように、ラザロを兄弟たちの所に送って言い聞かせてほしい——彼らにはモーセと預言者(旧約聖書)がある。その教えに耳を傾けないなら、誰かが死人の中から生き返っても聞きはしない。

### 3. お盆という行事が持っている意味

- ①お盆(盂蘭盆会)とは何のこと?
- ②盂蘭盆会の矛盾
- ③生きている人間が死んだ人間に対して出来る事があるのか。それによって死後の世界が変わるのか

### 4. 結論

本日の箇所、聖書が語っている真理をまとめると

- ①死後の世界は存在する
- ②すべての人が天国に行くのではなく、ハデス(地獄)に行く人もいる
- ③天国と地獄の間を行ったり来たりはできない
- ④死後の世界の居場所は生きている間の、イエス・キリストに対する信仰で決まる。セカンドチャンスはない
- ⑤聖書のみことばを揺るぎない土台として、地上の人生と死後の人生が神と共にある日々であるように